



2023年8月 第751号

教会だより

カトリック甲府教会 月報

〒400-0032 山梨県甲府市中央2-7-10

Tel / Fax 055-237-2531 <http://catholic-kofu.com>

編集・発行 カトリック甲府教会 広報委員会

2023年7月23日 年間第16主日ミサでのお説教

カトリック甲府・塩山教会 主任司祭 芹沢 博仁

今日はユウスケ・ミウラ君の洗礼式がありますけど、まだ自分の信仰を表明できない子どもは、先ほどの式文にもあったように教会の信仰の中で洗礼を受けます。自分の信仰で洗礼を受けるのではなくて、教会の信仰の中で洗礼を受ける。それはこのあと、教会が何を信じているのか、どんな神を信じているのか、神と私たちの関係はどういうものなのか

それを教えられていく、伝えられていくということです。その第一の責任は親にあるわけですがけれども、でもその親が責任を果たせるように信仰を伝える、信仰教育をしていくとその責任を果たせるよう手助けするのは教会の役目なんだと。先ほどのたとえ話に現れる主人の姿、それはたとえ話そのものは『天の国は次のようにたとえられる』というように神がどういう世界を求めているのか、完成させようとしているのか、それは私たちの信仰でもあるわけです。それを少しみたいと思います。たとえ話は本当に短かったわけですが、日本語では訳は逆になっていますけども、元の文では、この主人の命令はこういう風になっています。

『両方とも育つままにしておきなさい。麦まで一緒に抜くかもしれないから。』なぜこうしなければならないのか、なぜこうするのか、それは良いものまでそこで失うかもしれないから。で、私たちはこういう世界、神が人と人との関係をやっぱりこうしてほしい、神が人に対して、世界に対してこうしているのだからその世界の中の私たち自分たち人間はやっぱりそれに合ったものを目指していく、そのように成るように努力していく。で、そこにある神の願いというのは、まあ麦まで一緒に抜いてしまうかも知れないといわれるように多少の犠牲はやむをえない、多少の犠牲はしょうがないよねというのは、現実の私たちの社会、世界の中で良いものを目指していくのならどうしても伴ってしまうものがある。でも神は良いものが少しでもなくなってしまふ、傷ついてしまふことは望んでいないし、我慢できないということでしょう。で、私たちはそういう意味では今日のように幼児洗礼を受けて教会の中で育っていく、信仰を伝えられていくという時に神がどういう神であって、私たちに何を望んでいるのか、それをやっぱり考えていくというのは本当に大切なんですけど、大人自身も考えてないと子どもに伝えるのは難しいですね。ちょっと私たちの社会の中のことをそれぞれ



皆さん思い当るところはあるかも知れませんが、私がとても心に残っていることをひとつお話ししたいと思います。静岡県で働いていた時に静岡教会・城内教会と呼ばれる教会が静岡県の真ん中あたりにあるんですけど、この教会は駿府城という昔のお城があったところに建っています。で、御城があったところがあって内堀と外堀とその間に教会が建っているんですけど、ここは本当に双葉学園とか裁判所とか県庁とかがずーっと内堀外堀の間に立っているところです。で、もう一つ建物が、施設があります。それは城内小学校。そのまんまの名前なんですけども、そういう小学校があります。で、車で静岡教会の仕事を終えて帰るときとか小学校の前の一方通行なので帰るときに通らなければいけないんですけど、なかなか車で小学校があると思うくらいなんですけど、そこの校庭にフェンスがあってそこにスローガンというか標語が書かれてたのがずーっと貼られていました。それは校庭に向けて貼られているわけではないので、学校の前を通る人たちが見るようにということなんだろうと思います。ま、いろんな元気にあいさつしましょうとか、まあ今時分は声を掛けられても、挨拶されても知らない人には返さないというのが普通かもしれませんが、ま、そんな言葉がある中で一つこういう言葉がありました。『悪い芽は伸びる前に摘みましょ。』まったく今日のたとえ話とは逆の方向ですね。もちろん悪い芽を間違いなく、他のことには傷つけることなく摘むことが出来るのならばなくもないかなというところなんですけども、さっきちょっと触れたように私たちの社会は悪いものを取り除こうとすればそのまわりのものも一緒に取り除いてしまう。たとえば草を抜く時なら草は抜けるけども周りの土まで一緒に抜いてしまうということですね。土にとってはえらい迷惑ということなんですけども、でもこの悪い芽は伸びる前に摘みましょというこの考え方と言うのは別に日本の社会の中で珍しいことでは決してなくて、多くの人が当たり前に考えている。でも私たちはちょっと違う考え方をしている。もし誰かが犠牲になる、間違っって犠牲になるのならば、それは手を出さない方がいい。ま、だいたい社会の中で犠牲になる人は力のない人、社会的地位が低い人、お金持ちでない人、あるいは自分の思っていることを最後まで言い切ることが出来ない人がだいたい『多少の犠牲は止むをえない』の中に入れられてしまう。で、社会的にはだいたい良くなったねで評価されるかもしれないけど、神さまの目からは評価できない。なぜ彼らに彼女に、この人をこの子を犠牲にしたのか。で、私たちはそういう、その価値観、あるいは目指す世界があるんだと。だからぜひこの洗礼を通して三浦さん夫婦、そして代父母の方はユスケ君がどういう世界を体験したらいいなという希望を持って育てていけるか本当に考えてほしいなと思います。そして私たち教会もまた、親と代父母の人を支えなければいけない、フォローしていかなければいけないということですから、私たちもそういうことを一緒に考えていければと思います。良いものはたとえ悪いものを取り除くためにでも傷つけられなくなってしまうたらそれは神の国ではないんだ。まじゃ、いつまでわるいものが存在しているのを我慢していなければならぬのか。それは間違いなく良いものを抜いてしまわない状態になった時に初めて手をつけるものであって、もしかしたら小さな子どもが、弱い立場の人が、貧しい人がずっと自分の思い、意見を言い続ける力のない人が大丈夫だという保証がない限りは、私たちは一緒に生きていくしかない。それはあきらめとしてではなくて本当に良いものがそのまんま 100%残るために、というところが私たちの視点なんだろうと思います。そういう神の姿、そしてその神、最後には神がはっきりと間違いなく分けてくださるという希望、信仰を私たちは持ちながら、これから雄介三浦君の洗礼式を喜びを持って行っていきたいと思います。

(記 今井)



おしらせ



1 敬老の集い

9月17日(日) 11:30 ~ サンタルチア講堂にて敬老の集いが行われます。
75歳以上の対象者には8月中旬にご案内ハガキを送りますので、ご出欠の返信をお願いします。

2 青少年委員会

8月6日(日) 午後4時~『平和のつどい~Together For Peace~』を開催します。青少年育成委員会では今年、教会の皆さんと楽しめる夏の特別プログラムを企画いたしました。平和への祈りを込めた折鶴作りや花火をする予定です。自由参加ですので申し込みは不要、当日は一部分だけの参加でも大丈夫です！折り紙が得意な方、子どもたちの安全を見守ってくださる方、純粋に夏を楽しみたい方、ぜひご参加ください！お待ちしております！！

3 地域福祉委員会



「Together We ーケアの共同体をつくるために」

7月17日(月) 13時~16時まで甲府カトリック教会で開催しました。カリタスジャパンの秘書司祭 瀬戸神父様、横浜教区担当司祭 渡邊神父様、カリタスジャパン事務局 須田様はじめ 50名の方が参加されました。参加者は、甲府教会信徒の他、山梨ダルク、富士五湖ダルク、韮崎教会、秦野教会、雪の下教会からも参加して下さいました。カリタスジャパン事務局の概要説明、瀬戸神父様の講話、6グループの分かち合い、最後は、瀬戸神父様、渡邊神父様、芹沢神父様の共同司式ミサ「愛を祝う」で「祈り」と「交わり」のひと時を終了しました。

4 きずなの会 お休み

5 典礼委員会 お休み

6 地域福祉委員会 8月20日(日) 12:00 ~ サンタルチア講堂

7 広報委員会 8月27日(日) 11:30 ~ センター事務所

洗礼式（8月23日）が、行われました。

DAVI YUSUKE MIURA（ダビ ゆうすけ みうら）くん（2才）とご家族様。
おめでとうございます。



関係団体などからのお知らせ

NPO法人こどもサポートやまなし

①運営委員会

8月の運営委員会は、お休みします。

②学習会

今月の学習会は、8月13日(日)、8月27日(日)の13時30分より山梨カトリック福祉センターで行います。

③こどもサポートやまなし「夏祭り」

8月26日(土) 16時よりサンタルチア講堂で行います。花火、バーベキュー、スイカワリ等で夏の夕べのひと時を楽しく過ごしませんか子ども達をお誘いのご参加をお待ちしております。ご参加を希望される方は、お名前と参加人数を8月10日(木)までに事務局 木村(090-8031-9608)までお願い致します。



聖母の被昇天とは？（8月15日）

マリアが霊魂も肉体もともに天に上げられたという教義で、1950年11月1日に、教皇ピオ十二世（在位1939～1958）が全世界に向かって、処女聖マリアの被昇天の教義を荘厳に公布しました。

この教義が制定される以前に、すでに教皇レオ十三世（在位1878～1903）の命令によって、検邪聖省（現在は教理省）の記録庫に多くの請願が特別に集積され、後には神学者たちの希望も追加されました。また、第一バチカン公会議（1869～1870）

において、204名の教父が聖母の被昇天を決定するように提案したことや、1921～1937年に「被昇天の定義促進運動」が盛んになったこと背景もあります。ピオ十二世は次のように宣言します、「われわれの主イエズス・キリストの権威と、使徒聖ペトロと聖パウロの権威、および私の権威により、無原罪の神の母、終生処女であるマリアがその地上の生活を終わった後、肉身と霊魂とともに天の栄光にあげられたことは、神によって啓示された真理であると宣言し、布告し、定義する」（『カトリック教会文書資料集』3903）。これは「おめでとう、恵まれたかた」（ルカ1・28）と神の使いからのあいさつを受け、神がともにおられるという恵みに満ちたものであるが故に、その生涯においてキリストと最も深く結ばれ、死後においてもキリストの復活と栄光にあずかっていることを意味します。つまりマリアは復活の恵みを受け、キリストを通しての神における人間の完成に到達したことを確信をもって宣言しているのです。聖書の中で、聖母の被昇天については直接記されていませんが、カトリック教会は何世紀にもわたって伝達されてきた伝承（聖伝）を聖書とともに大切にしてきました。この聖母の被昇天の教義も神から啓示された伝承の一部であることをかつての司教たちが一致して認め、ピオ十二世が公に教会の教義であることを公布することによって、マリアが神の母であることを特に強調したことが考えられます。この8月15日が聖母マリアの祝日であることについて、歴史的に次のように言われています。5世紀のエルサレムでこの日に祝われていた神の母マリアの記念は、6世紀には、マリアの死去の日として東方教会で祝われるようになりました。この死去は、マリアが天に召された（帰天）ことと永遠のいのちのうちに誕生したこととして記念されていたようです。やがて7世紀半ばに西方教会にも受け継がれ、教皇セルジオ一世（在位687～701）は、徹夜祭やハドリアヌス教会からサンタ・マリア・マジョーレ教会までの行列などで盛大に祝っています。マリアの被昇天の名で知られるようになったのは、8世紀末になってからです。こうして1950年のピオ十二世の教義宣言に至るまでマリア信心の深まりと同時に、次第にこの日を特別な日として祝うようになりました。聖母の被昇天への信仰は、マリアだけが特別な存在だと言い表すものではありません。キリストによる救いにあずかる人たちの象徴として、信じるすべての人たちの救いへの希望を表現するものです。ミサの集会祈願はこのことを教えます、「全能永遠の神よ、あなたは、御ひとり子の母、汚れのないおとめマリアを、からだも魂も、ともに天の栄光に上げられました。信じる民がいつも天の国を求め、聖母とともに永遠の喜びに入ることができるよう」。 （カトリック中央協議会 HP より掲載）



今月の教会カレンダー（典礼暦・外国語ミサ・行事等）



8月 4日(金)	初金	10:30	ミサ (参加制限なし)
8月 6日(日)	主の変容 (年間第18週)	10:30	ミサ (参加制限なし)
		14:00	ベトナム語ミサ (tiếng Việt)
8月13日(日)	年間第19主日	10:30	ミサ (参加制限なし)
		15:00	ポルトガルミサ (Português)
8月15日(火)	聖母の被昇天	10:30	ミサ (参加制限なし)
8月20日(日)	年間第20主日	10:30	ミサ (参加制限なし)
		12:30	韓国語ミサ (한글)
8月27日(日)	年間第21主日	10:30	ミサ (参加制限なし)
		14:00	英語ミサ (English)
9月 1日(金)	初金ミサ	9:30	ミサ (参加制限なし)
9月 3日(日)	年間第22主日	10:30	ミサ (参加制限なし)
		14:00	ベトナム語ミサ (tiếng Việt)

2023年度 ザビエル祭のご案内

テーマ 「ともに歩む」

場所：東京カトリック神学院（〒177-0052 東京都練馬区関町東 2-7-10）

日程：2023年11月23日（木曜・祝日）9:00～15:00

プログラム：9:00 受付開始 10:00 ミサ（主司式 東京カトリック神学院 院長 稲川 圭三師）ミサ後 模擬店販売・神学生企画 開始 12:30～講演会（講師 東京カトリック神学院 育成者 林 正人師）

14:10 閉会式

動画配信 予告編 2020年7月25日 本編 2023年12月3日よりYouTubeにて期間限定配信予定

